



M I G A コラム

「世界診断」

2016年7月15日

Trump is everywhere!

萩原 誠司

明治大学研究・知財戦略機構 客員教授



東京大学教養学科アメリカ科卒業後、1980年通商産業省入省。プリンストン大学修士(MPA)課程卒業(修士号取得)、APEC室長、大臣官房政策企画官、機械情報産業局情報政策室長を経て、通商産業省を1998年依願退職し、岡山市長選へ立候補。翌年、岡山市長に当選、2005年衆議院議員当選。2010年帝京平成大学教授、法政大学学術担当教授、2013年明治大学国際総合研究所客員研究員を経て、2014年研究・知財戦略機構 客員教授。2014年3月美作市長選に立候補し当選、現・美作市長。

急増する美作市のインバウンド

美作市の地方創生総合戦略には、インバウンドの宿泊者数を年間一万人とするという目標がある。計画原案の策定は平成27年の1月。平成25年度の実績は3007人であった。平成26年度は、4179人となった。現時点で、平成27年度の集計が出されているが、顕著に増加し7822人となった。日本全体のインバウンド数が目標の2000万に迫る1900万を超えたが、この流れと軌を一にするものとみるのか、日本全体の人口の6000分の1の美作市であるので、これを日本全体に拡大すると約4700万人になるので、日本をリードしているとみるかは、お任せしたい。

偏った構成

一方で、来訪者の国別構成をみると著しい特徴が表れる。平成27年度における最大の来訪者比率を占めたのは、中国であったが、美作市においては、中国は2%を占めるに過ぎない。また、韓国の比率も全国に比べて著しく低い。逆に、台湾、特に香港の比率は非常に高い。

旅行目的に、「買い物」の比率が高い中国および韓国の旅行者が、取り分けて目立った免税店もない美作を敬遠した結果との見方もある。

	中国	韓国	台湾	香港	その他
全国	24%	18%	20%	7%	31%
美作市	2%	8%	28%	53%	9%

営業戦略が背景

しかし、実態をホテル旅館の経営者に聞いてみると、「偏った国別構成」の要因は営業戦略にあることが分かった。彼らは、「台湾のお客さんは、浴衣を着て周囲を散策していても、まったく違和感がない。」とか、「香港の方は、欧米に似たセンスがある。」というような理由で、台湾香港の市場に対しては、積極的に営業を展開している。また、今後の営業展開については、タイ、ベトナムをターゲットにしているとのこと。逆にその他の地域に対しては、営業活動を行っていない。

文化と文化の親和性

このことは、我々の地域のホテル旅館の経営者およびそのお客様（太宗が日本人で、残りを外国人が占める）の間での文化の親和性（または、その逆）の反映である。ホテル旅館での振る舞いがお互いに違和感のないものとして受け入れられることが、その旅館ホテルの価値を決める要因になっていると経営者と客の双方が理解しているとみるべきである。

国際関係上の重要な含意

米大統領候補であるトランプ氏がイスラム・メキシコに対して強い排外的な言辭を弄していることや、英国のEU離脱の背景をなす排外主義に我々が否定的に注目することは、当然として、そのことが国際関係における文化の親和性の重要性そのものを否定することにつながることは、得策ではない。日本が世界においてソフトパワーにおいて尊敬されようとするのであれば、我々の文化が世界にその独自性を維持しつつ他文化に対して侵襲的でなく、他文化からみて親和的であってほしいものである。また、親和性（または、その逆）が国民生活において避けられない以上、それをどのように表現するか工夫をすることのほうが重要になると考えるべきである。

エレガントな表現は

我々の地域のホテルや旅館の経営者は、「来るものは拒まないが営業にはいかない。」という方針を持っているが、これは国際的にみて許されない態度であるとは、思えない。あるいは、TPPが一定の条件のもとに加盟申請を認めることが、許されないという国際感覚が支配的ではない。21世紀の世界において、各文化が触れ合いを強める中で、その親和性の程度についての新たな気づきや、それに応じた付き合い方の変化が生じるであろうことは、現実として認めたいうえで、国際関係を議論する視座が必要だと思われる。